

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)	
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験/授業内試験)													
小テスト等													
レポート等	中間で1回、まとめに1回提出させるレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる、各メディア成立と特徴の理解が身についているかを評価する。	15	12	12	12	12	12	15					90
討論・発表等													
授業への参画度	授業毎に書かせるリアクションペーパーで、参画度を評価する	1	1	1	1	1	2	3					10
その他()													
その他()													
その他()													
到達目標別の比率(%)		16	13	13	13	13	14	18					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中間、まとめのレポート提出について、授業内で解説を行う。また、リアクションペーパーに書かれた疑問点については、適宜授業内で触れる。

【教科書・参考書等】						
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度	
図説 日本のメディア [新版]	藤竹 暁	NHKブックス 1196	2018	教科書	必携	
メディアと日本人	橋元良明	岩波新書1298	2011	参考書	任意	
メディア社会	佐藤卓己	岩波新書1022	2006	参考書	任意	
備考						

【オフィスアワー】
授業中に示すメールアドレスで随時受け付ける。対面質問も受けるが、メールで日時予約(火曜・木・土曜日の午後)が条件。

【実務経験を活かした実践的教育について】	
担当教員の実務経験の有無	有 実務経験の内容 放送局におけるニュース取材から放送までの実務について
実務経験に基づく実践的教育の内容	日々流れるニュースで、授業日迄に流された特徴的なニュース、分かりにくいニュースについて、特に授業に関連したものに解説を加え授業冒頭で触れる。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	イントロダクション。メディアとは何か、今どんなメディアで情報を得ているか、メディア研究の入り口を示す。	
	この回の到達目標	メディア研究の入り口を理解する。到達目標①②に関連し、メディアとは何かを理解し、説明できる。	
	事前学修	本講座シラバスでのメディアの諸問題について、新聞、出版、放送、広告、エンタテインメントの各業界別の問題点を列記しまとめておく。	150分
	事後学修	個人・社会・メディアの関わりについて考える。授業の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。	90分
2	現代社会とメディアの関係	現代社会とメディアの関係 人々とメディアの関わり。現代の特徴。教科書P.13～26「本書を読む人の為に」に沿って解説。	
	この回の到達目標	日本のメディアの盛衰について、到達目標①②③に関して、歴史的背景を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書P.13～26「本書を読む人の為に」を、特に戦後の日本メディアのメディア別盛衰について注意して読み、その特徴を列記しておく。	180分
	事後学修	Webの台頭が著しいが、それに対して既存メディアはどう対処しているか。また、既存メディアの必要性はどうか考察する。	60分
3	現代メディアの利用と環境	ケータイからスマホへ教科書第6章 ケータイからスマホへ P.247～273に沿ってその変遷を解説する。	
	この回の到達目標	現代のメディア利用が、携帯電話成立とインターネットの普及、更にスマートフォン中心となっていった経緯を、到達目標②に関連し理解できる。	
	事前学修	教科書P.247～273を事前に読み、何故メディアからの情報が、WEB や携帯電話からの情報に偏り始め、普及とともにスマートフォンに変わって行ったかを考えながら読む。	180分
	事後学修	スマートフォンの功罪について、具体的に列記し考察する。	60分
4	各業界 新聞①	第1章 新聞① 教科書新版P.27～に沿って日本の新聞の成立時期や、限段までの変遷を学ぶ	
	この回の到達目標	新聞の成立、変遷について、ニュースメディアの祖である新聞の生まれた理由を、到達目標①に関連し理解できる	
	事前学修	教科書新版P.27～ 第1章について、新聞の盛衰についてメディアの祖であることに留意し、現在の状況も考慮しながら、事前に読んでおく。	180分
	事後学修	コンビニや、図書館で新聞に触れ同日の紙面を複数紙読んで、同一の出来事の表現の違いをみる。	60分
5	各業界 新聞②	第1章 新聞② 教科書新版P.27～P.74教科書に沿って新聞業界のはじめから盛衰を解説する。	
	この回の到達目標	新聞は読まない人が増えたという割に、メディアとしての信頼度が高いのは何故か、到達目標①②③に関連し理解できる。	
	事前学修	当日の新聞を複数紙読んで、同一の出来事について記した記事の表現の違いを列記しておく。	90分
	事後学修	インターネットのプラットフォームニュースサイトで、ニュース項目をチェックしてみる。既存メディア発のニュースがどのくらいあるか件数を数え、Webメディアと比べる。	150分
6	メディアの大衆化以前	映画「薔薇の名前」抜粋 上映 印刷機発明以前の中世ヨーロッパの時代、本は写本であったが、本を所蔵できるのはキリスト教会であった。知の独占状況と大衆化以前のメディアについて学びレポートを提出する。	
	この回の到達目標	メディアの大衆化以前は、本は写本として流通していた。また本が所蔵されているのは中世ヨーロッパではキリスト教会、日本では貴族階級の独占であった。大衆化以前のメディアについて、到達目標①②③に関連し理解できる。	
	事前学修	映画「薔薇の名前」について、本編等映画雑誌、Web等で、印刷術の発明の前は本はどこに保存され、どう扱われていたかを中心にストーリーを確認する。	90分
	事後学修	知の独占であった中世の教会には、知識の大衆化、メディアの大衆化にどんな影響があったか振り返り、その後の印刷術の発明によるメディアの大衆化への流れを推論する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ	内 容	
7	マスコミュニケーションの成立と近代①	前回のメディア大衆化以前の状況から活版印刷」の発明、写真、映画と発展してくるメディアとそれが大量に伝達されていく過程を学ぶ	
	この回の到達目標	活版印刷機の発明後、宗教改革や政党政治等、社会状況とメディア・コミュニケーションは密接に関係しながら発達して来たことを、到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。	
	事前学修	マスコミュニケーションが成立するためには、どのような社会状況や条件が必要か特に文字、口伝、印刷物、交通、平和かどうか等を考慮に入れ、調べる。	150分
	事後学修	前回提出のレポート課題について、調べたことと自らの考察は、分けて書く事や、薔薇の名前の内容と比較、考察する。	90分
8	マスコミュニケーションの成立と近代②	前回の世界各国でのマスコミの成立状況を受けて、アメリカと日本の新聞の日刊紙の成立状況についてその過程を学ぶ。	
	この回の到達目標	マスコミの成立条件を受けて、アメリカと日本の新聞の成立、ジャーナリズムの初期の姿を到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。	
	事前学修	アメリカでのイエロージャーナリズムとは何か、調べ、何故、センセーショナルリズムが起きるか考察する。	120分
	事後学修	今のアメリカ、日本の新聞や、雑誌、TV、webジャーナリズムは、マスコミ成立時と比べてどうか。比較考察してみる。	120分
9	各業界 放送① 制度・構造・歴史	テレビの放送組織、機械構造を学ぶ。教科書第2章放送 P.75～130のうちテレビの歴史から現在まで。	
	この回の到達目標	テレビの発明、成立、テレビ普及のエポックを学ぶ。今は普及しているPCと同じように放送開始当時は大変高価だったものが普及していく経緯を社会、時代背景と共に、到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。	
	事前学修	テレビと映画との映像表示システムの違い、普及の仕方を調べ、対抗関係にあった2つのメディアが、依然として残っている理由を考察する。	150分
	事後学修	テレビ普及と社会事象、現代史との対比が、事件をはじめ社会的出来事と共に認識できているか、〇〇のテレビ化、映像化といった社会現象と共に考察する。	90分
10	各業界 放送② WEB、動画配信と放送	テレビ、ラジオの今とインターネット、スマートフォンとの対立、融合について。また動画配信サービス、youtube等との関係について問題点を探る。教科書第2章 放送 P.75～130	
	この回の到達目標	1970年代からメディアの王者であったテレビが2000年前後から視聴者を減らし、Web、スマホ、定額動画配信といった新たなメディアが発展してきた。今後、テレビなど放送はどうなっていくのか、現状と問題点を到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。	
	事前学修	テレビを視聴する。ニュース、ドラマ、バラエティー、ドキュメンタリー、スポーツ中継、教育・文化・科学番組は、それぞれ何の為に存在するか、また、コマーシャルのある商業放送と受信料を取る公共放送の違いを理解する。	120分
	事後学修	動画配信、オンデマンド配信はどういうものか体験してみる (Tver、GYAOといった無料のアプリを使う)	120分
11	各業界 TVニュース小史 放送③	テレビニュースの発達を、機器の発展とともに研究する。フィルムからビデオへ、地上波から衛星へ、アナログからデジタルへ、インターネットとSNS。	
	この回の到達目標	テレビニュースの発達について、機器の発展とともに特に速報性を中心に変わってきた状況を、到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。	
	事前学修	現在のテレビニュースを視聴する。その際、出来るだけ、どのような素材、どのような方法（中継、ビデオ構成、スタジオ原稿、フリップなどのスタジオ展開）で放送しているか注意して観る。	120分
	事後学修	テレビニュース小史を学び、改めてテレビニュースを見、デジタル新聞や動画ニュース等と比較してみて問題点を復習する。	120分
12	各業界 出版と広告 業界の概要	教科書P.131～出版、P.169～広告業の各界もWebの波に押され、広告業界は、伝統的な看板からスマートフォン利用の広告まで幅広い。出版は電子書籍の台頭と、特に雑誌に特化して述べる。	
	この回の到達目標	Webの台頭が著しいが、その流れが加速する原因と現状の出版・広告業界について状況を、到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。	
	事前学修	教科書P.131～出版、P.169～広告について、それぞれの業界の盛衰に注意しながら、現在の課題に注目し列記しておく。	150分
	事後学修	業界の変化が速さを増していることを知ることと、Web広告がテレビ広告を抜く可能性があり、それは何を意味するかを考察する。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ	内 容	
13	各業界エンタテインメント	映画、アニメ、音楽業界を中心とするエンタテインメントは、映画・音楽は2千億円産業、アニメは国内だけで2兆円産業といわれる。それぞれの産業の成立と今、現在の問題点を探る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、映画、アニメ、音楽産業、それぞれの業界の特徴に注意しながら各業界の盛衰と今後の課題について理解できる。(教科書P.209～245)	
	事前学修	映画、アニメ、音楽業界、教科書P.209～245をそれぞれの業界の特徴に注意しながら盛衰と今後の課題についてあらかじめ読んでまとめておく。	150分
	事後学修	アニメ業界が産業として大きく飛躍した理由や経過について具体的に調べて確かめてみる。	90分
14	フェイク・ニュースとファクトチェック、SNS。	2016年のアメリカ大統領選は「フェイクニュース」という言葉を流布させ、「オルタナティブ・ファクト」を流行らせた。こうした言葉はSNSによって広がり、一方でそれを調べる「ファクトチェック」も立ち上がった。「フェイクニュース」と「ファクトチェック」それを結ぶ「SNS」との関係をあきらかにする。	
	この回の到達目標	フェイクニュースとは何か、ファクト・チェックとは何を明らかにすることか、到達目標①②③④⑤⑥関連し理解できる。	
	事前学修	フェイクニュースとは何か、具体的にどういうことがあったか、フェイクニュースの特徴は何か列記して、代表的なフェイクニュースの具体的な文を含めて、調べる。	140分
	事後学修	フェイクニュースに騙されないための方策や、得た情報の拡散の方法に注意を払うにはどうしたら良いか授業内容を受けて更に考察する。	100分
15	授業内レポート及び解説	これまでの講座でやってきた単元の選択問題を出し、レポート形式で答える。制限60分。終了後授業内レポートについて、模範例をはじめ、書き方のポイント、分かりやすく書く方法、必要な記述などを示すことで受講生にフィードバックをする。	
	この回の到達目標	これまでの講座でやってきた範囲の中での理解度をレポート提出で評価する。成績評価の方法・基準・割合の通り。それぞれの課題を到達目標①②③④⑤⑥に関連し理解でき、説明できる。	
	事前学修	レポート課題についてその範囲を復習し、レポートを時間内に書ききれるようにする。	180分
	事後学修	授業内レポートで書いた内容を検討し、書けなかった部分、足りなかった部分を補強する。	60分